

平成二十九年度 大学院人文科学府博士後期課程第2期入学試験問題

(東洋史学・外国人留学生入試)

次の各問に答えなさい。(解答は解答紙に記入)

問 I 十七世紀における、ベトナムのホイアンおよびジャワ島のバンテンへの、中国磁器(景德鎮・漳州窯)と日本磁器(肥前窯)の輸出動向を、それぞれの輸出主体と輸出ルートに留意して述べなさい。

問 II 次の各語について、簡明に説明しなさい。

- ① 呂宋壺
- ② 浪白澳
- ③ 広南
- ④ 塗澤民
- ⑤ 末次平蔵
- ⑥ Fort Zeelandia
- ⑦ 曹永和
- ⑧ 『殊域周咨録』

問Ⅲ 次の史料を現代日本語に訳しなさい（解答の字体は常用漢字でも可）。

臣以菲才、謬膺簡任、奉熹宗皇帝嚴旨…「地方有事、不得過家遷延」欽此。臣星馳至海上、審視情形、料理戎事、始知澎湖為海濱要害、屏蔽八閩、通呂宋・琉球・日本諸國必泊之地、商漁舳舻、日往來以千數。先朝設有兩營兵馬、提防甚備、誠重之也。自紅夷弄兵其上、我兵將不敢窺左足於汎地、商漁不啻墮魚腹於重淵、浸假而數年之後、根穴日固、掃除更難。小之則粵東香山澳、大之則遼左撫順城也。

臣具疏言狀、法在必勦、而苦於軍興無資。因前撫臣商周祚題動布政司庫存積銀兩、復綴詞上請。奉熹宗皇帝俞旨…「紅夷狡詐、為患方深、巡撫官著督率將吏、悉心備禦、作速驅除。有不用命的俱以軍法處治。其奸徒倚勢非為、貽害地方、訪實重處。一切安攘事務、俱便宜行。庫銀准照前旨動支。該部知道」欽此。

臣日夜焦勞、與前按臣今起陞太僕寺少卿喬承詔及諸文武將吏選練兵卒、製造舟器、為聲討之計。夷仍遣奸商池貴持夷書重賂嘗臣、臣焚賄斬使以絕其狡計。第相度進勦之勢、見大海澎湃中、萬難接濟、戰夷舟堅銃大、能毒人於十里之外、我舟當之無不糜碎。即有水犀十萬、技無所施。乃多方用計、誘夷舟於廈門港口、生擒夷首高文律等、並斬級六十名、用火攻燬其舟、夷卒之死於焚溺者無算、精銳略盡、氣勢始衰。餘黨之在澎湖者、奄奄釜魚、知其無能為矣。乃具疏以聞、且言擒獲夷首高文律等、俟蕩平之日、俘解闕下、聽候宸斷、以威四夷。

〔『明清史料』乙編、「總督倉場戶部右侍郎南居益謹陳閩事始末疏」〕